

(別添 4)

【鹿児島県】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする I C T 環境によって実現を目指す学びの姿

1 人 1 台端末を始めとする I C T 環境は、子供たち一人一人の理解度や認知の特性、興味・関心等を踏まえた「個別最適な学び」とそれらの学びが孤立することがないよう「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくために、とても重要な役割を担っている。また、鹿児島県教育振興基本計画では、計画の実現に向けて「I C T の効果的活用」についてまとめており、社会全体の D X、メタバース活用、W e b 3. 0 等の推進に向けた環境整備が加速していく中で、教育の分野において I C T を活用することは特別なことではなく「日常化」するなど、デジタル化を更に推進していくことは必要不可欠であると記載している。

子供が自ら「問いを発見する」、「解決の方法を見通す」、「課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する」、「自らの学びを振り返り、次に生かす」といった活動に取り組む中で、1 人 1 台端末を始めとする I C T 環境等を自ら選択し、活用することで「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」の実現と「学習者主体の授業」を目指す。

2. G I G A 第 1 期の総括

G I G A 第 1 期の端末及びネットワーク環境整備に合わせて、鹿児島県では、すべての児童生徒及び教職員に県域教育用アカウントを配布した。これにより、児童生徒は小学校から高等学校卒業までの 12 年間、自らの学びのデータをクラウドに蓄積することができるとともに、さまざまなクラウドツールを児童生徒が選択し活用できるようになった。また、県内すべての教職員が共通のアカウントをもっていることで、教職員を対象とした研修等も県域で行うことが可能となっていた。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

本県では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の実現に向け、令和 6 年度に教師の手引書である「学びの羅針盤」を改訂した。各教科等において 1 人 1 台端末等を効果的に活用した授業や遠隔教育システムを活用した授業等の実践を推進する。特に、特別支援学校においては一人一人の教育的ニーズに応じた学びを提供することができるよう、1 人 1 台端末の活用を進める。

また、今後は、教職員が授業や校務において、教育データ等を効果的に活用することにより、児童生徒一人一人に個別に最適化されたきめ細かな指導、教員相互の情報共有や効率的な成績処理などが行えるよう、支援体制の充実、環境の整備を推進する。